

指揮

沖澤 のどか Nodoka OKISAWA

青森県出身。東京藝術大学音楽学部指揮科首席卒業。卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞し、新卒業生紹介演奏会に出演。同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程修了。現在ハンス・アイスラー音楽大学ベルリン修士課程オーケストラ指揮専攻在学中。第7回ルーマニア国際指揮者コンクールにて第3位受賞。2011年～12年、オーケストラ・アンサンブル金沢指揮研究員を務める。

これまでに指揮を高関健、尾高忠明、松尾葉子、田中良和、クリスティアン・エーヴァルトの各氏に、オペラ指揮をハンス・ディーター・バウム氏に、現代音楽をマヌエル・ナヴリ氏に、コレペティツィオンをアレクサンダー・ヴィトリン、デヴィッド・ロバート・コールマンの各氏に師事。またピアノを小池ちとせ、北川暁子の両氏に、チェロを前島敦、村川芳信の両氏に、オーボエを西沢澄博氏に師事。

第19回アフィニス夏の音楽祭に指揮研究員として参加し、下野竜也氏の指導を受け、その後も同氏のマスタークラスを多数受講。井上道義氏のマスタークラスを受講し、優秀者に選ばれオーケストラ・アンサンブル金沢を指揮。ザルツブルク国際夏期講習会においてペーター・ギュルケ氏のマスタークラスを受講し、ザルツブルクチェンバーゾリステンを指揮。またヤルヴィ・サマーアカデミーに参加し、ネーメ・ヤルヴィ、パーヴォ・ヤルヴィ両氏の指導を受け、演奏会に出演。

2012年、東京都交響楽団定期演奏会『一柳慧プロデュース、日本管弦楽の名曲とその源流-15』にてジョン・ケージ作曲『エトセトラ2』を4人の指揮者の1人として指揮し、デビュー。同年サントリーサマーフェスティバル25周年記念特別公演オペラ『オレスティア』（クセナキス作曲）において急遽山田和樹のアシスタントを務めた。

2015年フェリックス・メンデルスゾーン基金の奨学生に選ばれ、ライプツィヒにてクルト・マズア氏の指導を受け演奏会に出演した他、ドイツ各都市にて3週間の研鑽を積んだ。2016年、IMPULS国際現代音楽祭にてティトゥス・エンゲルによる指揮マスタークラスを受講し、ツァフラーン・アンサンブルを指揮。直ちに次期音楽祭へ招待された。2018年には同音楽祭にてマグデブルク・フィルハーモニーとの共演を予定している。2017年、300人以上の応募から20人の1人に選ばれ、ダニエレ・ガッティとロイヤルコンセルトヘボウによるマスタークラスに参加した。

これまでに、コンツェルトハウス・ベルリン、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京都交響楽団、藝大フィルハーモニア、九州交響楽団、ブランデンブルク州立オーケストラ、ブランデンブルク交響楽団、ライプツィヒ交響楽団、シオルジェ・エネスク・フィルハーモニー、多くのアマチュアオーケストラを指揮。

オペラの分野でも活動を広げており、2017年ベルリンドイツオペラにて新作オペラ『Neue Szenen』を指揮した。自ら指揮、演出、制作を務めた『椿姫』を始め、ラ・フォル・ジュルネ金沢では『フィガロの結婚』を弾き振りした他、これまでに『愛の妙薬』、『ドン・ジョバンニ』、『奥様女中』他を指揮。副指揮及びプロンプターとしては、神奈川県民ホール開館40周年記念公演、黛敏朗作曲『金閣寺』、神奈川県民ホールオペラシリーズ『魔笛』、日生劇場ライマン作曲『リア』、千住明作曲『滝の白糸』他数多くの公演に携わっている。